

2013 年度

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	専門教育・教養教育の位置づけ
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容
	キャリア教育の実施状況
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
	教育課程における国際化の推進
	学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	各学科において、適切に編成されている。 最初は、基礎科目・語学科目・体育等から始め、次に各学科における専門科目へと進み、最終学年における卒業論文・卒業研究・卒業制作への取り組みを行う形になっている。
4-2-2	文学部教務委員会、各学科カリキュラム委員会を編成して、継続的に検証を行っている。全学共通科目は、東松山キャンパス運営委員会で検証を行っている。初年次教育や高大連携・キャリア支援等は、学部学科それぞれのレベルにおいて検討し、実践しているが、現在の取り組みを更に充実させることを目指している [初年次教育] 日本文学科⇒日本文学基礎演習、日本文学史概説 中国学科⇒中国語学基礎演習（会話）、中国学入門、漢文入門、中国語入門、『論語』基礎演習 英米文学科⇒Freshman Seminar、カルチャー・スルー・イングリッシュ、スピーキング・イングリッシュ 教育学科⇒基礎演習、教育学概論 書道学科⇒書道学基礎演習、中国語学基礎演習、書道学概論、楷書法、行草書法、仮名書法、篆隸書法、中国書道史通論、日本書道史通論
4-2-3	学生の国際交流については、協定校との双方向の留学制度に基づき、適切に運用されている。また、各学科独自の海外研修や語学研修などの機会も増加している。教員の交流については、大東文化大学創立90周年に因み、2013年度には、中国社会科学院との共同国際シンポジウムを実施（中国・日本、各1回）した。聴講者としての学生の参加も多く、日中国際交流に有意義であった。 2012 年度 奨学金留学⇒中国1、英米1、教育1、書道2 協定校留学⇒中国5、英米1、書道2 語学研修（アメリカ）⇒日本文2、英米1 語学研修（オーストラリア）⇒日本文2、英米2、教育1 語学研修（台湾）⇒中国8、書道2 中国学科主催短期研修（中国・山東大学）⇒中国29 2013 年度 奨学金留学⇒中国2、英米2、書道1 協定校留学⇒中国3 語学研修（オーストラリア）⇒英米4、教育2 中国学科主催短期研修（台湾・輔仁大学）⇒中国29 書道学科主催短期研修（中国・中国美術学院）⇒中国20
4-2-4	各学科協議会、文学部教務委員会が中心になり、最終的には教授会にはかり、決定する体制が確立している。

【効果が上がっている事項】

4-2-1	各学科において基礎から専門へと進み、併せて語学・体育・情報等、幅広く現代の大学生としてふさわしいカリキュラムが配置されていると言える。
4-2-2	各学科の教員作成のテキストを中軸とする基礎教育に力を注ぎ、推薦入試入学者への初期指導など、きめ細かな対応に取り組んでいる。
4-2-3	学生の国際交流は、語学研修において、また異文化体験の貴重な機会として、活発化している。教員の国際交流も、海外研究の機会を得て、その成果が研究・教育に還元されている。
4-2-4	定期的に文学部教務委員会を開催し、問題にスムーズに取り組めるようなサイクルが出来ている。

【改善すべき事項】

4-2-1	現状を検証し、更なる改善を目指すように協議する。教員の現状認識、現状把握の意見交換。
4-2-2	教育の質保証を、どのような形で実践していくかの更なる検討と実践。これには、予算措置を伴わねば実現不可能な要素もあるため、大学当局との折衝も必要となる。 文学部においては、テキスト分析・資料文献等調査・問題把握とそれへの対応・文章表現・プレゼンテーション、と多岐に亘る教育目標が上げられよう。
4-2-3	留学生受入れの更なる環境整備（宿舎・奨学金等）。これも大学当局との折衝が必要となる。実施可能な計画は、今後協議していく。
4-2-4	

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

大東文化大学 HP、文学部履修の手引

【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	現状を検証し、更なる改善を目指すように協議を続け、実践する。	学生の授業目標達成度を踏まえた教員の現状認識・現状把握の意見交換。	→					
14年度 目標	教員、現状のカリキュラムや、教育方法・成果に関するの現状認識・現状把握の意見交換の機会を設ける。		→					